

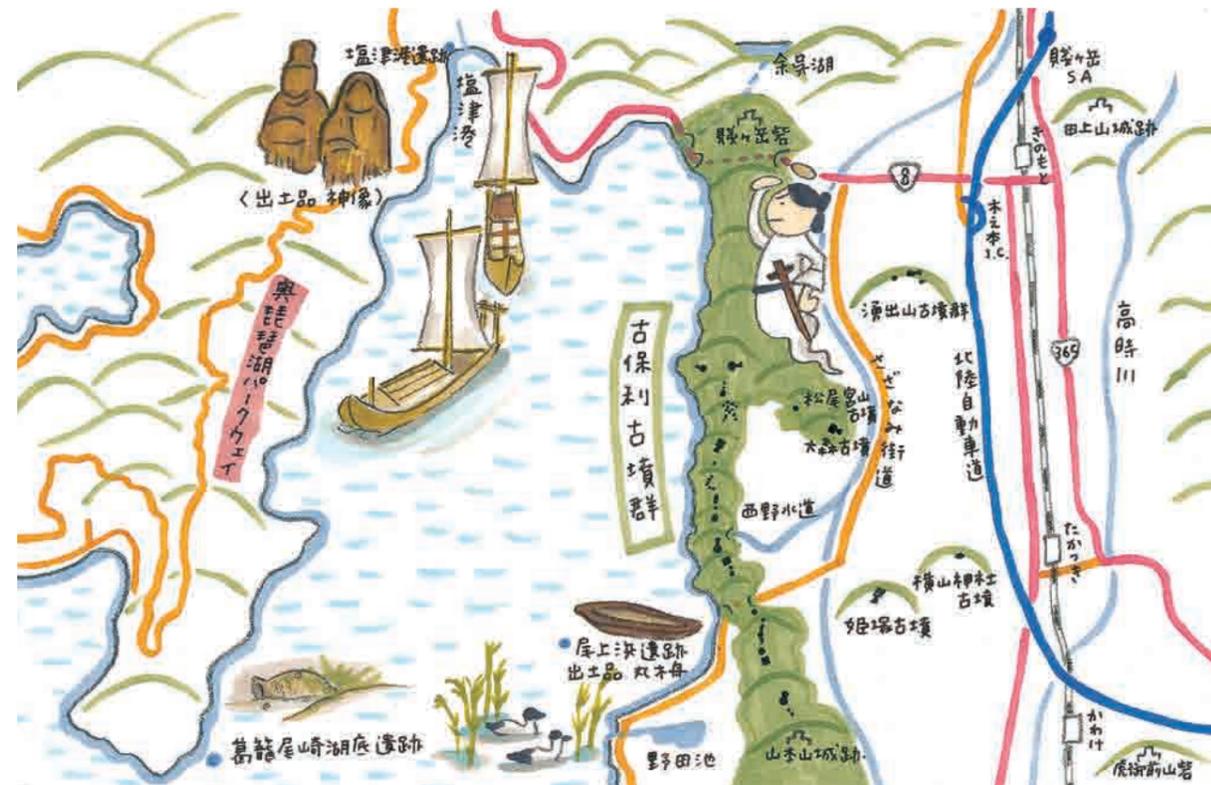
周辺の
みどころ

古保利古墳群の周辺には、まだまだ、見るべき古墳が多い。横穴式石室に兵庫県から運ばれてきた竜山石製組合せ式家形石棺を納める松尾宮山古墳群、小松古墳ともに成り立期の前方後方墳である大森古墳や姫塚古墳、大型円墳の父塚古墳、埴輪と葺き石を持つ若宮山古墳、後期の前方後円墳である横山神社古墳などである。

また、弥生時代の高地性集落である湧出山遺跡や、玉作り工房の見つかった物部遺跡も古保利古墳群を考える上では見逃せない。古墳時代を通じて、この地域は一大拠点であったようだ。



松尾宮山古墳の横穴式石室と家形石棺



【アクセス】

- JR北陸線高月駅から徒歩もしくはバス。古保利古墳群の尾根までは、山麓から徒歩になる。その他、賤ヶ岳の山頂からのアプローチも可能。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 高月町教育委員会『古保利古墳群分布調査報告書』
- 高月町教育委員会『古保利古墳群』
- 高月町教育委員会『古保利古墳群Ⅱ』

古保利古墳群

伊香郡高月町西野ほか



古保利古墳群の遠景

琵琶湖の北端、賤ヶ岳から琵琶湖に沿って伸びる丘陵尾根上に、前方後円墳8基、前方後方墳8基を含み、100基を越える古墳が累々と築造された。その多くが古墳時代前期に営まれたようで、複数の首長の系譜が結集して古墳群を営んだと考えられる。

明らかに琵琶湖を意識した立地を示すものや、琵琶湖からのみ見ることのできる古墳など、首長層の結集には、琵琶湖が強く意識されていたことは疑いない。古墳時代の地域権力の形成過程と琵琶湖との関わりを示す、他に例をみない特徴的な古墳群と評価されている。





小松古墳の築造状況

古保利古墳群

所在地 伊香郡高月町西野ほか

小松古墳の特徴

100基を超える古墳群の中で、最も注目されているのが小松古墳である。墳長60mの前方後方墳で、これは前方後円墳の西野山古墳(90m)に継ぐ規模である。また、古保利古墳群では最も早い3世紀中頃の築造と考えられている。全国的にみても、前方後円墳と言う新しい墓制が生み出されつつある時代で、当該期における最大級の前方後方墳となる意味は小さくない。

副葬品としては、2面の漢式鏡と銅鏃、鉄器類が確認されている。鏡面は、大和から配布されたものではなく、被葬者が独自に入手したものと考えられ、この地域の首長層が、貴重品の物流に関与していた状況を示している。また、銅鏃は古墳時代の武人の象徴として、新たに生み出された形式で、大和に生まれつつある勢力とも、関係をもっていた可能性を示している。墳頂部では大量の土器類を用いた埋葬儀礼が行われており、強い個性を

見ることができる。

前方後円墳と前方後方墳

前方後円墳は瀬戸内地域を中心に九州から近畿地方の勢力が、連合の証として生み出した新しい首長墓で、その成立と分布の拡大は、大和王権の成立を意味すると考えられている。

一方の前方後方墳については、琵琶湖地域から美濃・尾張地域で成立、発展した伝統的な墓制で、前方後円墳ほどの強い規制力は持たないものの、これらの地域の独自性と独立性を示すものと理解されている。

古保利古墳群では、こうした意味の異なる二つの首長墓が混在して営まれていることを大きな特徴とする。古保利古墳群に結集した首長層の中においては、新しい大和王権に与するものと、伝統的な地域のつながりを重視するものと、議論が二分していた状況を示すものと考えられる。さらに、円墳や方墳を採用する首長層も存在した。



小松古墳出土内行花文鏡



小松古墳出土方格規矩鏡



小松古墳出土壺形土器



小松古墳出土瓢形土器

古墳時代という新しい時代の幕開けに際し、伝統性と新しい体制との狭間の中で、地域が混乱し、中小の首長層が方向性を模索しつつある状況を示す、極めて興味深い古墳群といえる。

八つ岩支群の横穴式石室

古保利古墳群の中で、八つ岩支群は、横穴式石室を採用する後期古墳群である。この中のA-22号墳では、朝鮮半島の高句麗に由来する横穴式石室を採用するとともに、副葬品として多量の鉄滓が治められていた。同種の横穴式石室は、大阪府下などで幾つかの事例が知られる程度で、県内では唯一の事例である。また、鉄滓を副葬する古墳は、大和南部や岡山県下などで多く見られ、製鉄や鍛冶生

産との関係が考えられている。

従って、A-22号墳の被葬者は、鉄生産に従事する渡来系氏族と考えられ、県下でいち早く操業を開始する木之本町古橋製鉄遺跡や、大量の鍛冶関係遺物が出土した高月南遺跡との関係が考えられる。

いずれにしても、琵琶湖北部の交通の要所というべき場所に、新しい技術を身につけた渡来系氏族が居住していた可能性を示し、この地域の先進性と重要性を示唆している。

琵琶湖が近江の中に完結するものではなく、遠く朝鮮半島、高句麗まで通じる交通路であった事実を物語る。琵琶湖と地域の間接的関係、前期の古墳とはまた異なる形で表現する、古保利古墳群を代表する存在である。